第２章　東温市の現況

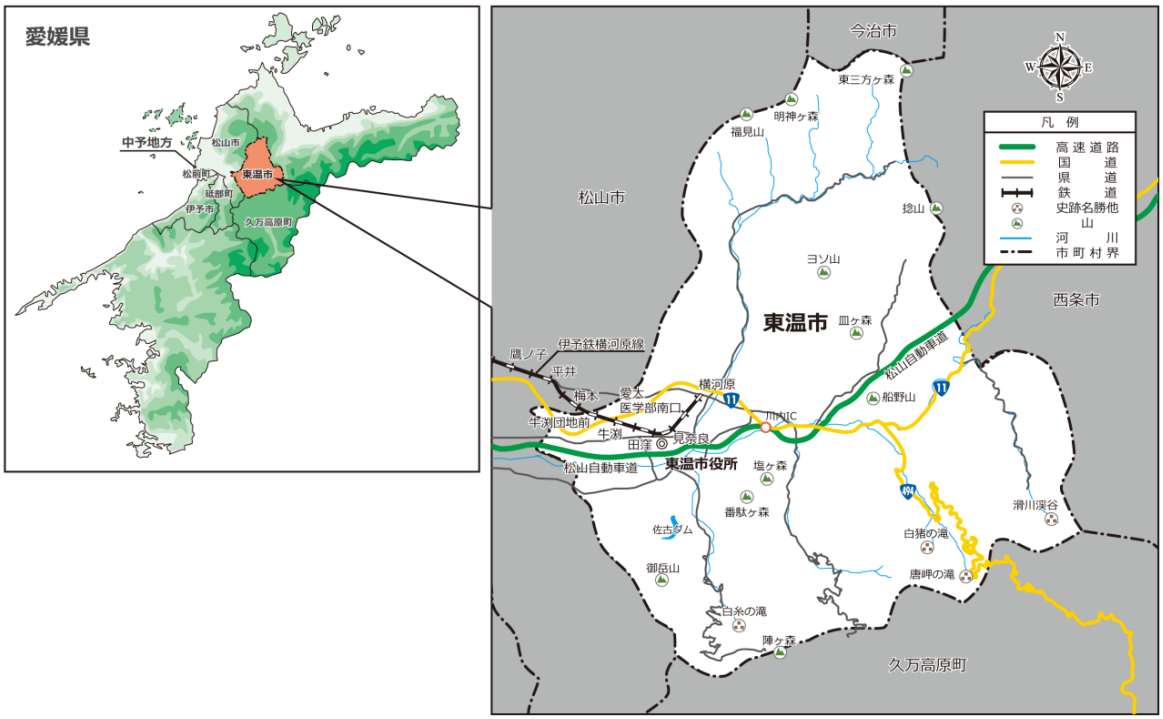
１　位置と沿革

本市は、愛媛県の中央部に広がる松山平野の東部にあり、松山市の中心部から約 12 km に位置し、市域面積は 211.3km^2、東は西条市、西は松山市、南は久万高原町、北は今治市に接しています。

県都松山市の至近にある地理的条件から道路交通網の整備が進むなか、松山自動車道川内インターチェンジ周辺への企業の進出や、大型ショッピングセンター等の立地のほか、志津川土地区画整理事業（施行面積 21ha、計画区画 800 区画、計画人口約 1,800 人）が施行され、森林や田園に包まれるかたちでまちが形成されています。

また、雑誌等が発表している「住みやすい街」ランキングにおいても、本市は全国上位(県内１位)にランクされています。愛媛大学医学部附属病院など総合病院の立地による医療水準の高さに加えて、人口１万人当たりの医師数でも全国トップクラスであることなどが要因としてあげられます。

観光面では、奇跡の劇場と呼ばれる「坊っちゃん劇場」をはじめ、泉質が自慢の東温市ふるさと交流館「さくらの湯」、野天風呂が自慢の「見奈良天然温泉利楽」など観光スポットも充実しています。



東温市の位置

２　自然的条件

（１）地形

本市の地形は、東に石鎚山脈、南に皿ヶ嶺連峰、北に高縄山塊を望み、三方の山間部と西の松山平野に向かって広がる扇状地などから形成されています。

主要な河川としては、市の中央部から松山市に流れる重信川及びその支流である表川、東部の山間部から西条市へ流れる中山川などがあります。

重信川水系は、本市に貴重な水資源をもたらし、農業地帯としての流域を支えてきましたが、近代以前には度重なる水害で住民生活を脅かし、その治水に多くの努力が注がれてきました。重信川上流と支流表川は、山間からの出口から両川の合流点にかけて緩傾斜の扇状地を形成し、合流点から西へは緩やかな流れとなって、松山平野に連なる沖積平野を生み出しています。

石鎚山脈が西と北に延びて形成された市の東部・南部の山地は急峻で、南部の皿ヶ嶺（1,271m）一帯は皿ヶ嶺連峰県立自然公園に指定されており、沖積平野から急斜面がそそり立っています。また、北部の山地は高縄半島を形成する高縄山塊で、中心を成す明神ヶ森（1,217m）、東三方ヶ森（1,233m）が市境にあります。

東温市（北野田上空から東方を撮影）

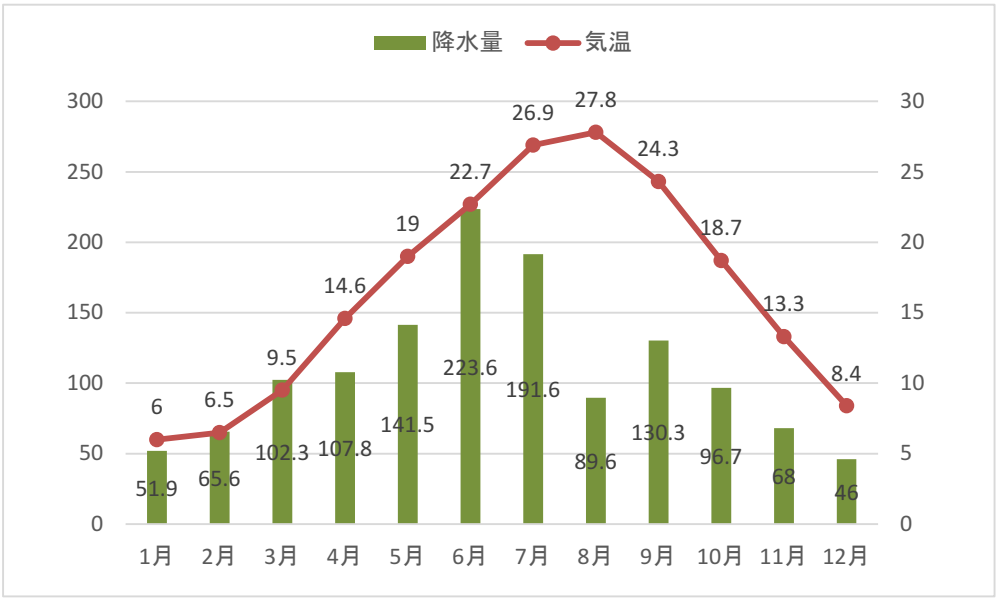
（２）気象

本市の気候は瀬戸内式に属し、温暖で降雨量が比較的少ないですが、地形が複雑であるため、場所によって大きな気温差があります。

冬季には重信川及び表川沿いの低地に強い季節風が吹きます。また、低地では夏季には高温となり冬季も温暖なためほとんど積雪を見ませんが、山間部では夏季は涼しく冬季に一定の積雪があります。降雨は梅雨の６月と７月、台風シーズンの９月が特に多く、次いで３月から５月の季節の変わり目に多くなります。

本市に直近の気象観測所である松山地方気象台の年平均気温は 16.5℃、年間降水量は 1314.9 ㎜となっています。

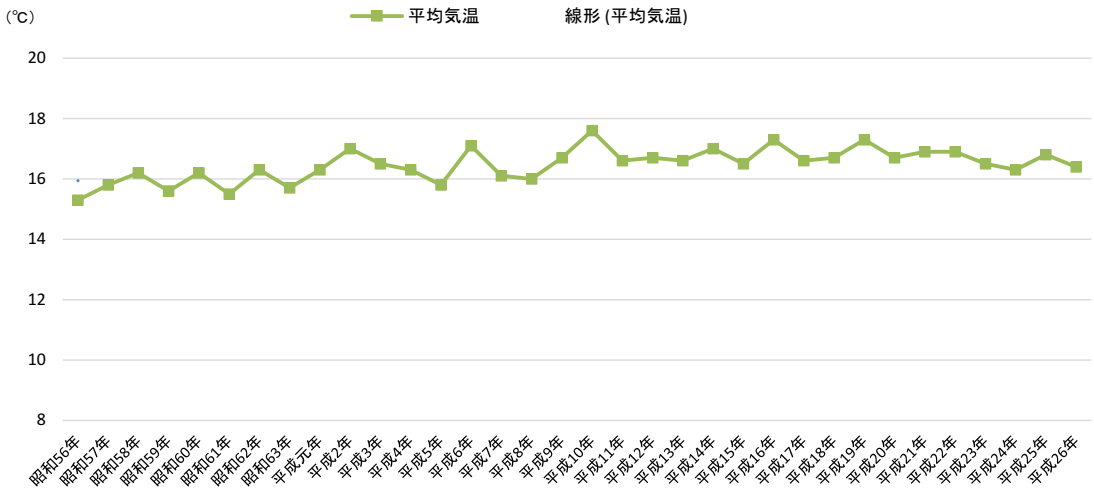
昭和 56（1981）年からの平均気温の推移を見ると、わずかながら上昇傾向が見られます。



出典：気象庁松山地方気象台

気温・降水量の月別平年値

※平年値の統計期間は 1981 年から 2010 年の 30 年間



出典：気象庁松山地方気象台

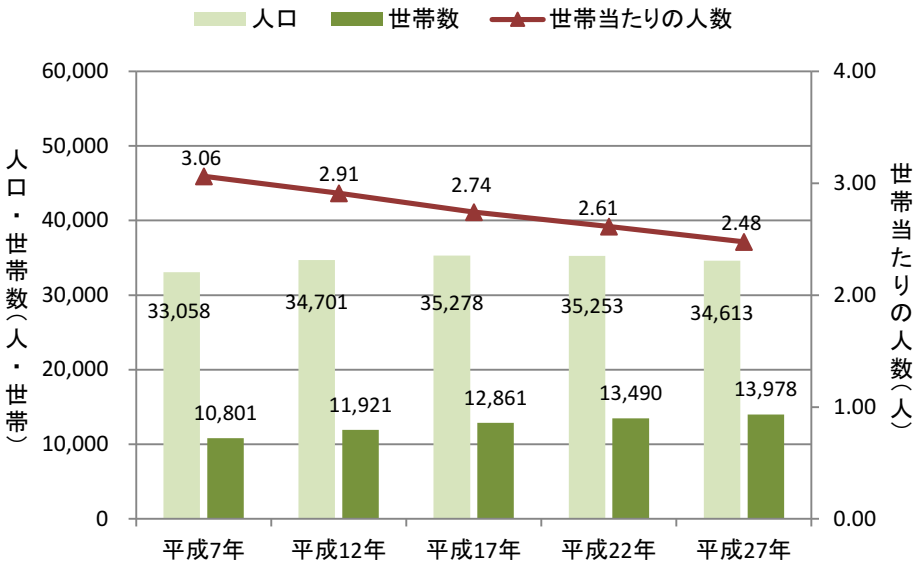
気温の年平均値推移

３　社会的条件

（１）人口・世帯数

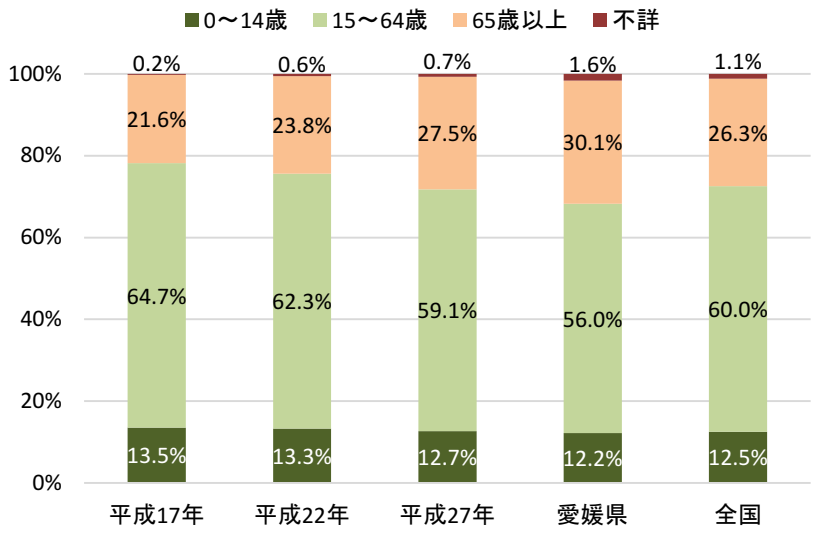
本市の人口は、松山市の郊外居住生活圏として発展したことから、増加傾向が続いていましたが、平成 22（2010）年に減少に転じています。一方、世帯数は増加傾向が続いており、それに従って、世帯当たりの人数は、一貫して減少しています。

年齢３区分構成比の推移では、本市においても少子・高齢化が進んでいることがうかがえます。



人口・世帯数の推移

出展：国勢調査



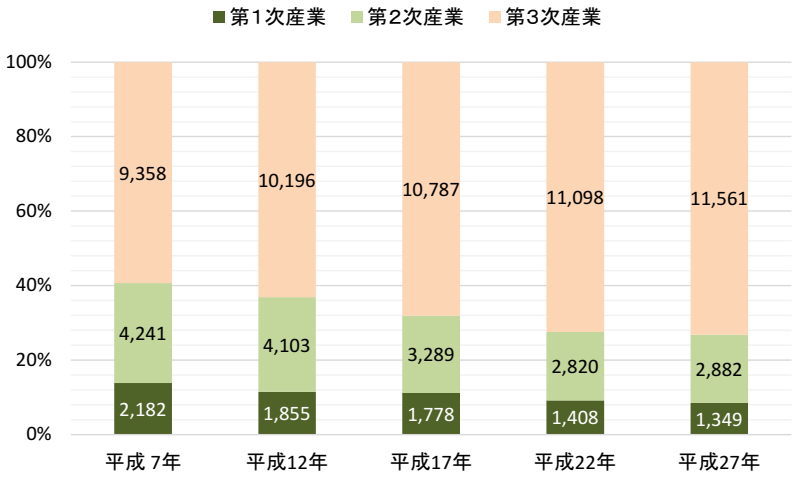
年齢階層別人口比率の推移及び県・国との比較

出典：国勢調査
愛媛県・全国は平成 27 年

（２）産業

①産業別就業者数

本市の産業別就業者数は、第１次産業及び第２次産業の減少と第３次産業の増加傾向が継続しています。



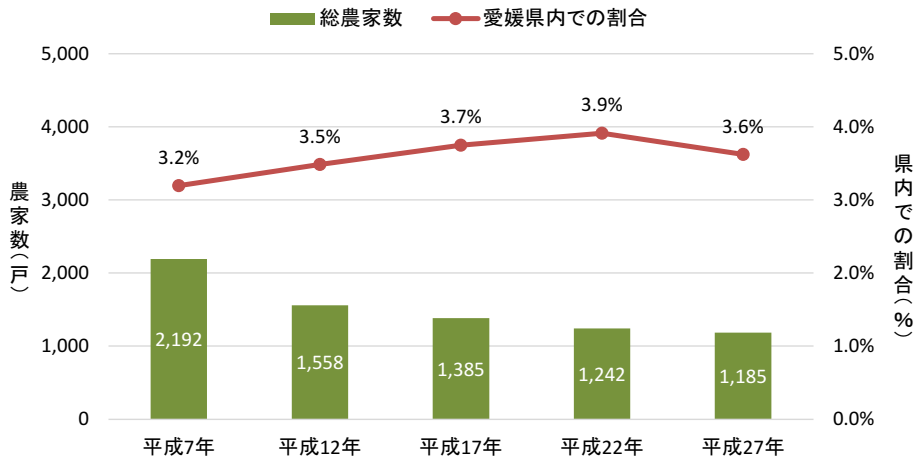
出典：国勢調査

産業3区分就業者数比率

※グラフ中の数値の単位は人

②農業

本市の農家数は、平成７（1995）年 2,192 戸から平成 27（2015）年 1,185 戸に大きく減少しています。県内の総農家数に占める割合は、平成 27（2015）年には低下に転じています。



出典：農林業センサス

農家数と県内に占める割合の推移

③林業

本市の森林面積は、16,132ha で市域の 76.3%を占めています。平成 27（2015）年農林業センサスによる本市の林家数は 770 戸であり、これは県林家数 22,707 戸の 3.4%にあたります。

森林の面積

区　分	国有林	民有林（A）	地域森林計画対象森林（B）	A-B	森林面積 国有林＋民有林
面積（ha）	1,288	14,844	14,816	28	16,132

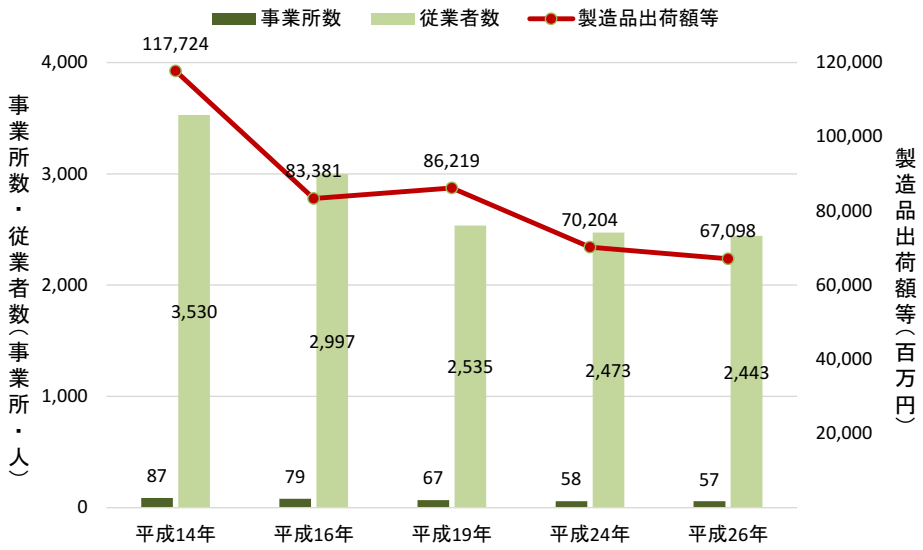
森林資源（地域森林計画対象森林）

区　分	針葉樹	広葉樹	立木地計	その他	面積計
面積（ha）	9,876	4,505	14,381	435	14,816

出典：愛媛県

④工業

本市の工業は、事業所数、従業者数、製造品出荷額ともに減少傾向が続いています。平成 26（2014）年の製造品出荷額は、平成 14（2002）年の 57.0%となっています。

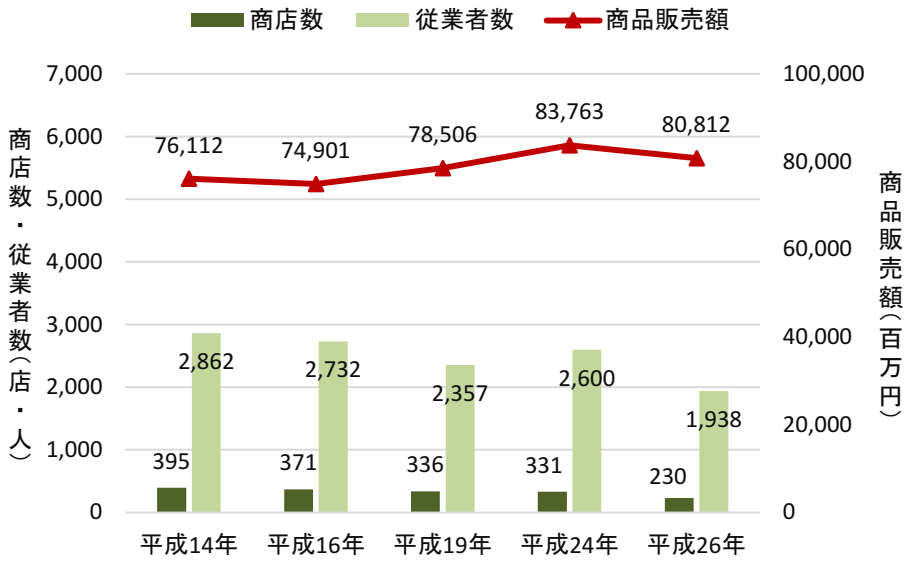


出典：工業統計調査
経済センサス

工業の推移

⑤商業

本市の商業は、小規模店舗の減少と大規模小売店舗の増加により、商店数の減少に対して商品販売額が増加する傾向が続いていましたが、平成 26（2014）年には、商品販売額も減少に転じています。

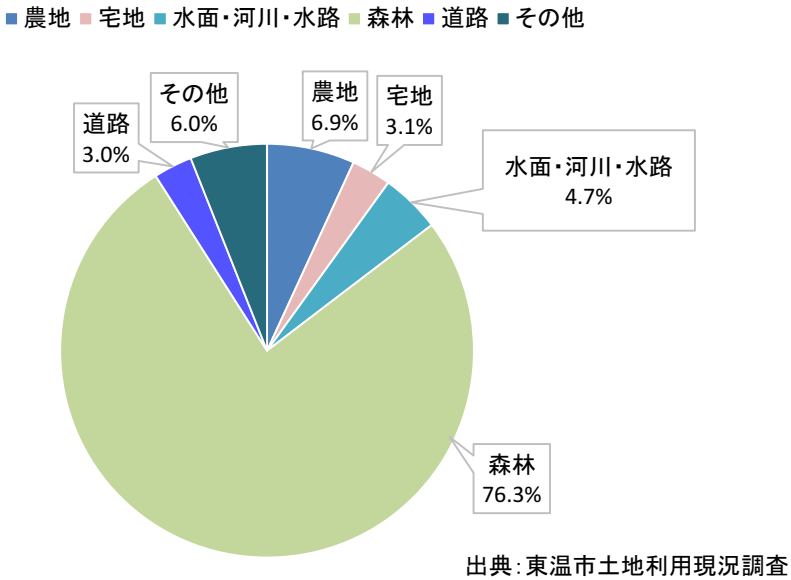


出典：商業統計調査
経済センサス

商業の推移

（３）土地利用

本市の土地利用別面積の割合は、田・畑の農地が 6.9%、宅地 3.1%、森林 76.3%などとなっています。



出典：東温市土地利用現況調査

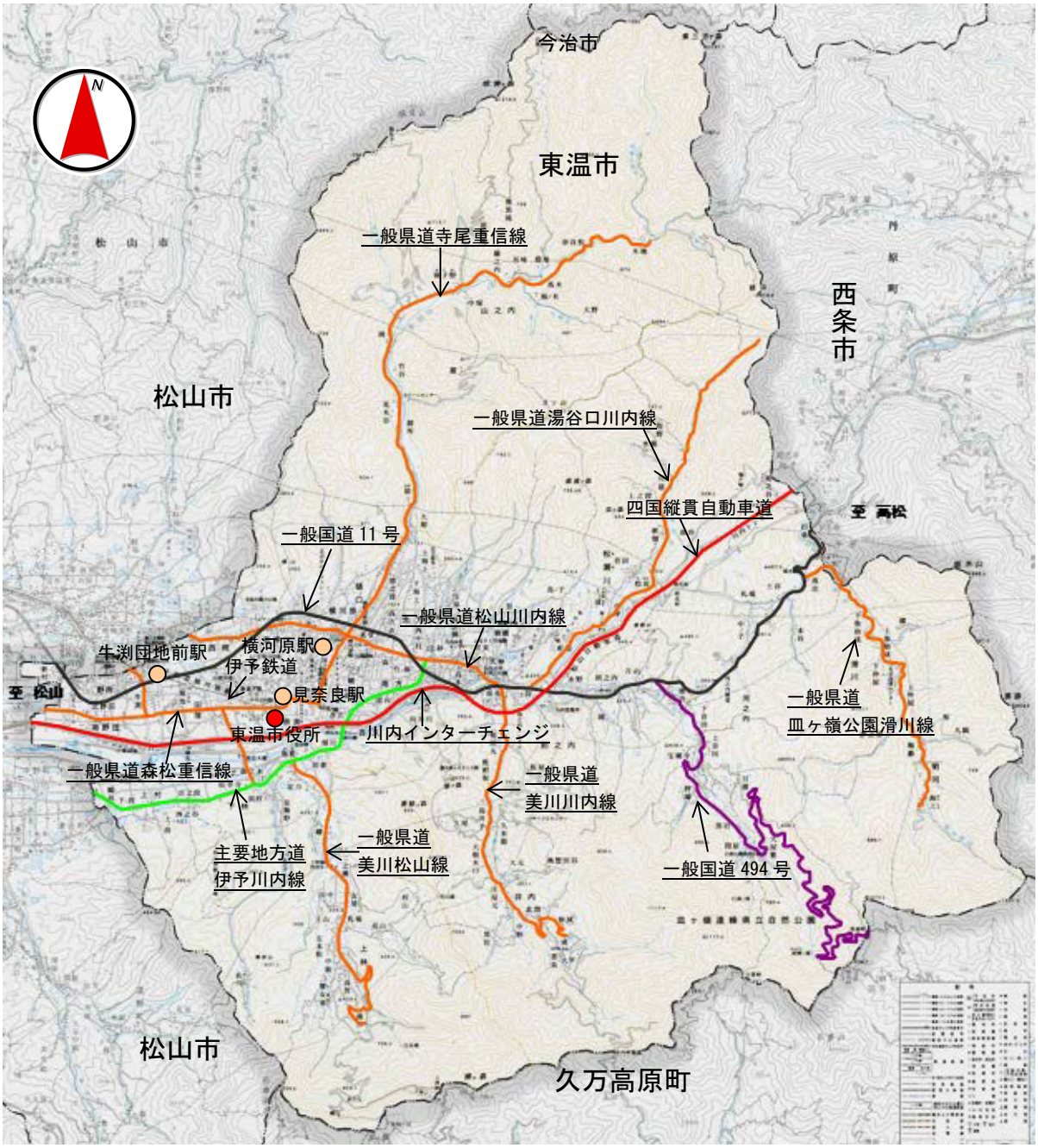
土地利用別面積（平成 27（2015）年 10 月 1 日現在）

（４）道路・交通

①道路・交通網

本市の道路網は、四国縦貫自動車道（松山自動車道）及び国道 11 号が市の中央部を東西に走っており、川内インターチェンジが設置されています。また、主要地方道県道伊予川内線、一般県道の森松重信線や松山川内線などが本市と松山市等を結んでいます。

鉄道は、本市の横河原駅と松山市の高浜駅を結ぶ伊予鉄道高浜横河原線があり、横河原駅のほか、東から愛大医学部南口、見奈良、田窪、牛渕、牛渕団地前の各駅が設置されています。

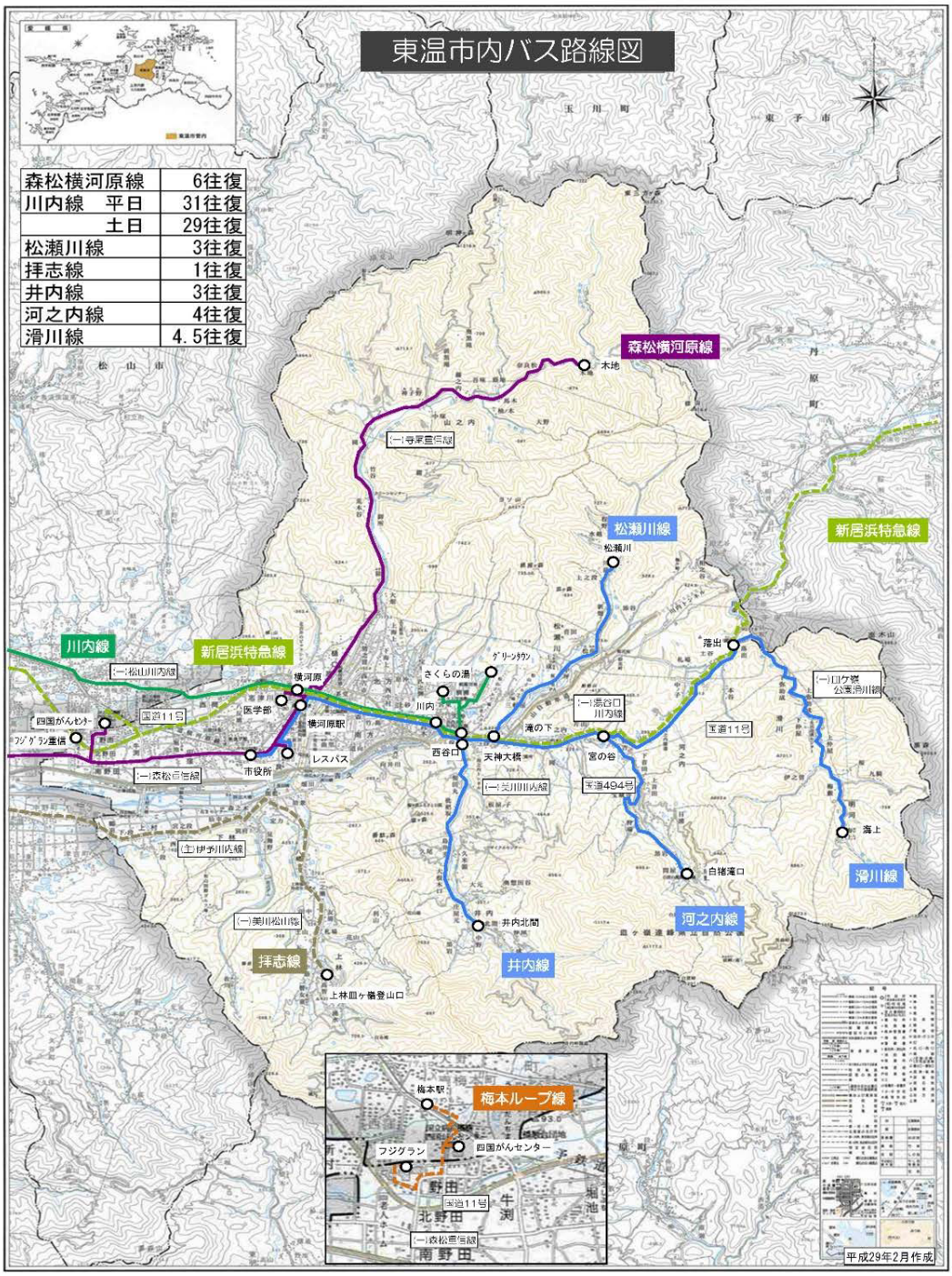


道路･交通網図

②公共交通

伊予鉄道高浜横河原線とともに市民の重要な移動手段となる路線バスは、７ 路線が運行されています。また、上林地区では予約制乗合タクシーが運行されています。

公共交通の利便性の確保と向上に向け、幹線交通との連携強化、運行ダイヤの見直し、利用促進の啓発などの取り組みが進められています。



バス路線と運行状況